

対話する人間

河合準雄(心理療法家)他

子供の自立は十分なる愛を注いでスキンシップを経過しないと返って自立しない・又子離れもしない、いずれは親から去っていくとき、悲しみを味わうのだから、せめて子育ての道中には子供と共に楽しむことがお互いの後々の為となる。

アメリカでは結婚を契約と考えている、例えば愛しているから結婚し愛がなくなれば離婚する。

日本人は夫婦関係を縁と考えている、従ってそう簡単には離婚しない。アメリカでは子育てでも契約的なものの考え方をしているが日本人の子育ては契約的・自立的なものを求めてもナンセンス、親子・夫婦とも「絆」を意識し強めたり・切断したりして深めつつ不思議な縁だな？ 相手の自由をどこまで許すか？ 許せるか？ 試しつつどこまでつながっているか・・・

「悪の体験と心のエネルギー」

柿盗び、昔はごく普通のケースの子供の遊びとしてあった、今は人工的なものの中で遊び親は平気で大金を投入している。

家庭教師・塾と当然のごとく行かせているが明らかに間違っている、日本の親にとって子供が悪いことをしても、それを見ながら耐えることだ、塾通いを辞めて成績が落ちたりした時、子供自らの力での克服を待つために心のエネルギーを使うのが本当の親の愛情である。

これからの親は「何かをする」とかに対してではなく、むしろ「何かをしない」という愛情の為に心のエネルギーを使うべきである。

不登校の子供に対して夫婦が真剣に対決してこそ真の対話が生まれ事態は解決に向かって行く、父親にとって難しいのは自分自身との対決であり子供のギリギリの本音を出して子供たちに立ち向かう、と子供達もよくなることが多いにも拘らず真剣に立ち向かわないでズルズル悪化させる。

勉強は中学生・高校生からでよい小学生迄は「遊び」が大切であらゆる創造活動の源泉でありプロ野球の体力作りに相当するものだ。

「家族みな幸福このバランスのあり方について」～偉人たちの夏～山田太一

人生後半の戦いとしての夫婦はお互いに似ていることが夫婦関係を維持してくれるし、お互いに違うところが夫婦関係を発展させてくれるものだ、ただそのどちらを強く意識するかで結果は良くて悪くても・・・つまり良く解釈することで夫婦関係は改善されていく、但し中年以降の夫婦にとって対話することが

どんなに困難なことで大事業かを認識する必要がある、その前提として自分のことを分かる・知ることが大切。

「すること」と「あること」我々の社会はすることに重きを置きすぎている、赤ちゃんも、おばあちゃんも存在するだけでよい。

{ 教育の現れ方 }

それはすぐれて人と人との関係において成立するもの「長所を引き出す」そして人間の「個性」というものを無視しては考えられない。

「ある小学校での討議」・・・祖母の時代に山羊を飼っていてそれを売った・・・
子供の反応～かわいそう・けしからん～の音が頭から出ての発言で盛り上がった。
先生の発言～売られていく山羊を見て可愛がっていた少女は何を思っただろうね・・・
発言はなくなったが、山羊もかわいそうだけど山羊を売らなければいけないことの方が
もっとかわいそうだと思うと発言した子供の声は腹から出ていた・・・活発でも明快でも
ないが皆に深く考えさせる発言であった。

「ある愛育養護学校の授業のビデオ」

子供たち一人ひとりの個性が尊重されるという点でこれだけ徹底した学校は他にない
一人一人の子供の動きにその子の個性が輝いて見える、そして的確に学習している。

「人を信頼する」

ある教室での子供の喧嘩・・・A君がB君を泣かせた、両君の動きとそれを見ていた
C子さんの～駄目じゃないA君～その発言に対するA君の反応(ちょっと反省の感じ)

先生がそうした動きをよく見ている、先生とA君の目が合った～微笑みをかわす～
人が人を信頼することはエネルギーがいる、何か発言をする、行動するのではなく、心
のエネルギーを使うことの大切さ。

「心の為にお金を使う」

登校拒否や家族暴力の子供たちが安心して心も体も自由に伸び伸びとできる施設、
十分食べ、十分休み、好きなように時間を過ごせる、それが理想の施設だ。

人はだれしも自らの生き方を正し、より成長していこうとする潜在能力を持っている、
それにふさわしい施設が今、必要とされている。

「少数精鋭の理想と現実」

役に立たないと思っている人間が意外なことで役に立っている。

～適数適鋭でうまく行く、但し最初からそれを狙うと集団に必要な緊張感が低下して多数怠慢となるのでメンバーに磨きをかける仕掛けも必要である。

{ 驚くうちは楽しみがある }

夏目漱石の虞美人草の中の一句・・・毎日の生活の中で驚くことを、いかに多く見つけるかで楽しみ多い人生となる。

夏目漱石の弟子として随筆の名手、寺田寅彦は「いわゆる頭のいい人はいわば足の速い旅人のようなものである、その反面、途中の道端に或いははちょっとしたわき道にある肝心なものを見落とす恐れがある」・・・「遅れの神」の意思を感じる、じっくり人生も大切、ウサギとカメ、長息……

{ 嵐の中の生き甲斐 } 城山三郎 角川春樹事務所

友人S君の告別式でH君と共にもっと彼と話しておくのだったなあ・・・慶弔積立金もいいがもっと友人にまつわる良い思い出をお互いにもっと積み立てておきたい、結果はともかく、あるべき姿を求めて、いかに悩み、いかに深く生きたか、いかにさわやかに、いかに優しく生きたか、良い付き合いとは何か～問いかけは果てしない～

{ 渋沢栄一の生きざま }

- ① 吸収魔
- ② 建白魔
- ③ 結合魔(人と人との)

その晩年に至るまで目の前にいる人に心の全てを傾けて対応した。

{ 魅力を感じる人の条件 }

- ① いつもあるべき姿を求めている
- ② 常に生き生きとしている
- ③ 卑しくないこと

{ 老子の言葉 }

金持ちの国はますます忙しくなって唯働くだけじゃないか・・・新しい知識が生まれれば生まれるほど人が忙しくなるなんて皮肉じゃないか・・・それに様々な法律や税法が細くなればなるほどその網を潜り抜ける悪党たちの数は増えるばかりなのだよ！

＝これが2500年前の言葉とは～まるで日本の命運をそっくりそのまま予言している。

但し希望は「だからこの大きな世界が鎮まるには人々ができるだけ相手の自由を尊重するしかないのだ、静かさを愛するようになれば自然にそこから豊かさが・繁栄が生まれてくるのだ！！」

{ この日・この空・この私 } 城山三郎

体調不振・体重減で精密検査を受けたところ若い医師からガンを宣告された、生きているその事だけで人間は十分幸福……それなのに何故俺だけがと無性に悔しく・情けなく・腹立たしかった。

幸いその後1週間にわたる検診の最終結果は誤診で私は命拾いした。

それ以降何でもない一日でも、又というより、其の一日こそが、かけがえのない人生の一日であり、其の一日以外人生はないと強く思うようになった、明日のことなど考えずに今日一日生きている私を大切にしよう！！ 人生の持ち時間は誰にとっても大差はない、問題はいかに深く生きるかである……

どれほど深く生きた記憶をどれほど持っているかでその人の人生は豊かになる、そのためにあえて挑むとか、打って出ることも肝要となろう。

以 上